

『教育実践マトリクス 標準版（仮称）』とは

【教育実践マトリクス 標準版（仮称）とは】

大阪府立西浦支援学校では、「教育視点」に立って児童生徒の実態を把握し、実態に応じた教育活動を行うためのツールとして『教育実践マトリクス』を作成、活用しています。

各担任、保護者が、児童生徒について話し合うときの共通の指標として活用されています。小・中・高の全学部で共通のアセスメントツールを使用することで、一貫した教育活動を行うと共に、児童生徒一人一人の成長の過程を共有することが可能となります。

『教育実践マトリクス』の作成に当たっては児童生徒たちの実態や、つけてほしい力を16の力（横軸）に分類し、その力1つ1つを構成している内容を12項目（縦軸）に分けて作成しています。また、それぞれのセル（マス目の1つ）には具体的な活動例を示しています。

これを受けて、地域の学校及び事業所等でも活用していただきやすいよう縦軸・横軸をそれぞれ10マスずつに再編集したものが『教育実践マトリクス 標準版（仮称）』です。

【教育実践マトリクス 標準版（仮称）の運用について】

日々の学校生活における行動観察や保護者の方への聞き取りを、『教育実践マトリクス 標準版（仮称）』の各項目と照らし合わせることで、児童生徒1人1人の実態を把握します。そこから、実態に応じた課題を設定していきます。ここで設定された課題に応じた授業を行うことでより系統だった指導、支援が可能となります。また、その指導・支援の情報を蓄積することで引継ぎ資料として活用することができます。

【教育実践マトリクス 標準版（仮称）の今後の展望】

実際に『教育実践マトリクス標準版（仮称）』を使用し、改善点を洗い出し、それに基づいて改定を行っていきます。使用者全員で、より児童生徒の実態に応じた『教育実践マトリクス 標準版（仮称）』となるよう今後も改善を行っていく予定です。

【ポイント】

教育実践マトリクス標準版（仮称）は・・・**実態把握**のためのツール

課題設定のためのツール

情報引継ぎのためのツール

保護者と支援者が話し合うための**共通の指標**です。

【使用方法】

0、『教育実践マトリクス 標準版（仮称）』に目を通し、どのような力の分類（横軸10種類）があるかを把握する。

①、児童生徒の行動観察、保護者等への聞き取りを行う。

②、各列を縦に見て、児童生徒の今の様子に最も合うと考えられるマスに○をつける。これを全ての列に対して行う

⇒実態把握

③、実態把握を基に各列の本年度の目標とすべきマスを探し、△をつける。これを、全ての列に対して行う

⇒ねらいの決定

④「ねらい」に即した日々の支援、指導の実践

⑤、年度末等に評価を行い、再度②、③を行う。

当初との変化を把握し、次年度の取り組みに活かす。